

過去から学ぶ 教訓

地形や気候条件などからみると、私たちが住む伊豆半島は、プレートの境界に位置していたり、台風の通り道であるなど自然災害が起こりやすい特性を持っています。また、過去に伊豆が見舞われた大震災『北伊豆地震』『狩野川台風』からは、いずれも50年以上が経過しており、体験者も少なくなってきました。これら大震災を決して風化させず、未来へ語り継いでいくことも私たちの役割の一つかもしれません。

地震

1930年(昭和5年)11月26日

北伊豆地震

死者 255人

全壊家屋 1,654戸

マグニチュード 7.3

最大震度 6(推定)

旧伊豆長岡町	川西村で死者16人、負傷者25人、住家全壊77戸、半壊124戸。江間村で死者3人、負傷者11人、全壊79戸、半壊38戸で合計死者29人、負傷者36人、全壊156戸、半壊162戸に及んだ。古奈・長岡温泉はほとんど全滅した。
旧葦山町	死者75人、負傷者105人、住家全壊517戸、半壊335戸、付属建物倒壊1,084棟、建物損壊518棟、全焼3戸、荒廃林地4町歩などの大きな被害を受けた。
旧大仁町	浮橋付近を通り南北に続く2本の断層、浮橋中央断層(延長約3km)と浮橋西方断層(延長約5km)、田原野付近を西北西に走る田原野断層(延長約1km)を生じた。田中山西麓には山崩れが起こった。この地震によって田中村で死者8人、負傷者18人、住家全壊63戸、半壊505戸、北狩野村では死者23人、負傷者122人、全壊209戸、半壊291戸の被害を受けた。

丹那断層を生じ、伊豆北部を中心に被害をもたらしました。

市内では、浮橋付近を通り南北に続く2本の断層、浮橋中央断層(延長約3km)と浮橋西方断層(延長約5km)、田原野付近を西北西に走る田原野断層(延長約1km)が生じました。田中山西麓では、山崩れが発生しました。



南江間にある地震動の擦痕

今

倒壊する北狩野村第一小学校(旧大仁東小学校) 土手和田地区松並通りの惨状

当時

忘 災

～いま、自分にできること～

東日本大震災から早や1年5カ月が経ちました。皆さんも日常生活からかけ離れたあの悲しみに焼き付いていることと思います。しかし、私たちが住む伊豆も、過去を振り返ると毎年のように自然災害に見舞われ、被害を受けています。過去に発生した大災害を認してみましょう。

台風

1958年(昭和33年)9月26日

狩野川台風

死者・行方不明者 約930人(市内290人)

全壊・流出・半壊家屋 2,300戸

中心付近最大風速 75m

最低中心気圧 880ミリバール

(現在はヘクトパスカル)

連続雨量(天城湯ヶ島) 739mm

連続雨量(天城湯ヶ島) 739mm

伊豆半島一帯を襲った超大型台風。9月26日、朝から降り続いた雨は徐々に強まり、台風が最も接近した夕方から豪雨となりました。山地に降り注いだ豪雨は、約1,200カ所に及ぶ崖崩れを発生させ、土石流を引き起し、狩野川に流れ込みます。

土石流は橋に滞留すると、ダムのように水かさを増やし、限界点に達すると一気に橋を押し流します。強固な鉄橋・修善寺橋をも押し流した濁流は、下流の集落を次々に襲い、いたるところで堤防が決壊、集落は濁流にのまれました。

旧伊豆長岡町	狩野川が増水・氾濫し、南部を中心に浸水。死者2人、負傷者26人、全壊4戸、半壊20戸、流失3戸、床上浸水618戸、床下浸水115戸、流埋田畑174haなどの被害が発生。
旧葦山町	狩野川が増水し、四日町付近の浸水水位は5m以上になった。被害は、死者66人、負傷者212人、行方不明2人、全壊50戸、半壊206戸、流失128戸、床上浸水874戸、床下浸水68戸、流埋田畑447haに及んだ。
旧大仁町	大仁の最大日雨量は26日250mmであった。被害は大仁で死者202人、負傷者236人、行方不明18人、全壊41戸、半壊71戸、流失147戸、床上浸水179戸、床下浸水312戸、流埋田畑127ha。また北狩野で死者3人、負傷者3人、行方不明2人、全壊5戸、半壊22戸、流失9戸、床上浸水36戸、床下浸水62戸に及んだ。



南條にある浸水位 道路面から高さ2.5m 白山堂にある洪水位

今

千歳橋に溜まる土砂や木材 大仁白坂付近のねじれ曲がった鉄道



【参考文献等】
 ・『北伊豆地震70年』：大仁町教育委員会発行
 ・『昭和5年の北伊豆地震に学ぶ』：田方郡町村会・教育長会・校長会・教育研究会発行
 ・静岡県地震防災センターホームページ ほか

- 近年の市内災害歴
- 平成16年10月9日 台風22号
床上浸水291軒・床下浸水272軒・半壊6軒・一部損壊132軒・土砂崩れ163カ所・避難者あり
 - 平成17年8月25日 台風11号
床上浸水18軒・床下浸水36軒・全壊3軒・一部損壊15軒・避難者あり
 - 平成19年9月6日 台風9号
床上浸水48軒・床下浸水114軒・全壊3軒・一部損壊53軒・避難者あり
 - 平成21年8月11日 震度5強
軽傷1人・建物一部損壊72軒・土砂崩れ5カ所
 - 平成23年9月21日 台風15号
軽傷1人・床上浸水4軒・床下浸水5軒・避難者あり

※地震は震度5以上、台風は床上浸水被害発生以上を掲載 ※建物被害は、住家、非住家を合わせた数

当時

第2章

被害を減らす 減災

「想定外」「未曾有」。ときに自然災害は、私たちの想像をはるかに越える被害を及ぼします。災害発生時、すべての被害を防ぐことは不可能なかもしれません。発生しうる被害を最小化し、被害を低減させる『減災』に向けた取り組みこそ、今の私たちに欠かせないものです。ここでは、減災のための取り組みを一部紹介します。



情報を得る

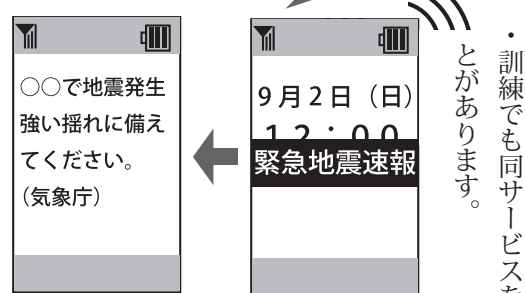
緊急速報メール(エリアメール)の導入

風水害などが発生、または発生するおそれのある場合などに、避難勧告などの緊急情報を迅速にお知らせするため緊急速報メール(エリアメール)の運用を開始しています。

内容

市内にいるNTTドコモ、ソフトバンクモバイル、KDDI(a.u.)の携帯電話利用者に対し緊急性の高い災害情報を配信するサービスです。

※発売年度等によって対象外の機種があります。



緊急速報メールの受信にかかる通信料・情報料は無料です。
・通信中、電源が入っていない場合、電波の届かない場所では受信できません。
・訓練でも同サービスを使用することがあります。

提供する情報

○緊急地震速報
震度4以上の強い揺れが想定される地域に気象庁から配信されます。
○災害・避難情報
『避難勧告』『避難指示』などを全市内に配信します。

その他

・配信エリア内の対応携帯電話へ一斉に緊急情報を配信します。対応機種および受信設定等については各種携帯電話会社へ直接お問い合わせください。
・緊急速報メールの受信にかかる通信料・情報料は無料です。
・通信中、電源が入っていない場合、電波の届かない場所では受信できません。
・訓練でも同サービスを使用することがあります。

伊豆の国市メール配信サービス

市では、地震情報や気象情報をメールで配信しています。上記とは異なり、自分で登録することにより、必要な情報が得られます。

防災情報		大分類
地震情報	気象情報	中分類
伊豆地方に震度4以上の地震が発生した場合に配信(24時間配信)	伊豆の国市に大雨、洪水警報が発令または解除された場合に配信(24時間配信)	内容
※緊急地震速報には対応していません。		

※『防災情報』のほかに、登録する『イベント』『生活情報』を受信することができます。
※配信する情報の項目や名称は、追加・変更することがあります。

登録方法

- ①下記のEメールアドレスに空メールを送信
- ②返信メールの受信
- ③URLにアクセス
- ④登録
- ⑤完了メールを受信



QRコードからも登録できます
izunokuni-entry@tokyoanpi.sbs-infosys.com



備える

『非常持ち出し品』と『備蓄品』

災害発生時は、迅速かつ正確な行動が要求されます。持ち出し品は、家族構成を考えて必要なものを用意しておきましょう。

また、非常時には、速やかに持ち出せる『非常持ち出し品』と、備蓄しておき後で取り出すことができる『備蓄品』とに分けて保管しましょう。

▼非常用持ち出し袋

非常用持ち出し袋は、家族全員が分かりやすい場所に置きましよう。中身は、災害備蓄品とは違い、避難するときに持ち出す『必要最低限のもの』を備えてください。重さの目安は成人男性で15kg、成人女性で10kg以内が適当です。



『伊豆の国市防災マップ』などを参考に、自分たちの家族にあったものを備えましよう。
※『伊豆の国市防災マップ』市役所各庁舎で配布しています



家が倒壊した場合も考え、備蓄品の保管場所は、家の外が適しています

▼備蓄品

家族全員の4日分以上の水や食料をはじめ、さまざまな種類の備蓄が必要になります。災害後数日間、行政からの支援物資を期待せず、自分たちだけで生活できるように備えておきましょう。

きりとり

●覚えておきたい！災害時の連絡、情報確認方法

▶NTT災害用伝言ダイヤル『171』

録音／再生時のダイヤル方法 録音時間／1伝言 30秒以内

◆録音するときは

171...1...0XX...XX...XX...XX...XX

被災地内のNTTの自宅電話番号

171...2...0XX...XX...XX...XX...XX

サービスの開始時期 ◆震度6弱以上の地震の発生
◆災害発生等で電話が相当混み合っている時
◆警戒宣言後、状況に応じて(毎月1日と正月三が日には、24時間体験利用ができます)

サービスの概要 ◆伝言保存時間約48時間(ただし体験利用の場合は6時間)
◆録音時間1伝言30秒以内(ひとつの電話番号あたり最大10伝言まで)
◆携帯電話・PHSからも利用できます(一部の事業者を除きます)

▶携帯電話『災害用伝言板』

大規模災害発生時にお客さまの安否情報を確認するための『災害用伝言板』を提供しています。災害が発生する前に、一度、各種携帯電話会社へ直接お問い合わせください。

▶同報無線電話確認サービス

市のお知らせや防災情報の放送内容を電話で聞くことができる無料サービスです。利用できる範囲は、市外局番(055、0558、0557)の地域に限ります。携帯電話は、県内のみ利用可能です。
※最新～24時間以内の内容を聞くことができます。(24時間・無料)

☎ 0800-200-1219

きりとり

第3章

自分をまもり 自分がまもる

災害時の大原則

『自分の身は自分で守る』

『家族を守る』『友人・隣人を

守る』ためにも、まずは自分が

助からなくてはなりません。

何も災害は『地震』『台風』だけ

とは限りません。『火災』『豪雨』

『土砂崩れ』など、身近なものか

ら未曾有のものまでさまざま。

『発生確率88%の東海地震』

『毎年発生する伊豆地域の災

害』を考えると、私たちは日頃

から、災害の危険と隣り合わ

せに暮らしていることを認識

しておかなければなりません。



田方中消防署長
梅原繁一

東日本大震災以降、市民の防災意識は確実に高まりをみせています。防災への『知識』『行動力』を高めるためにも、そして地域の絆を深めるためにも、地区の防災訓練には積極的に参加しましょう。そこで築く『地域力』こそ、災害時に一番必要とする『備え』であることは間違いありません。

防災訓練で築く『地域力』こそ、 災害時に一番必要とする『備え』

津波だって他人事ではありません。市内こそ、海に面してはいませんが、伊豆に住んでいる以上、私たちにとって海は身近なもの。これからの季節に多い海水浴や海釣り。また、沿岸を車で走ることも少なくないはず

です。災害はいつでもやってくるかわかりません。大地震や豪雨などの自然災害は、人間の力でくい止めることはできませんが、私たち日頃の努力によって被害を減らすことはできます。

災害が起きてからでは間に合いません。普段できていないことを災害時に行うことはできませんので、普段から『自分でできること』・『家族でできること』・『隣近所と力を合わせてできること』などについて考え、いつ来るかわからない災害に備えておくことが大切です。

家族で話し合っておく：

地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家庭の役割分担をあらかじめ

め決めておきましょう。そうすることで、発生直後、何をしたらよいか戸惑うことなく、慌てずに行動することができます。また、災害は必ずしも自宅

で発生するとは限りません。家族が離れ離れになった場合の安否確認の方法や、集合場所などを決めておくことで一人ひとりの落ち着いた行動につながります。

そのとき、
あなたが
だれが守りますか
そして
あなたは
だれを守りますか
そのためには：

総合防災訓練 9月2日（日）

毎年9月1日は『防災の日』、
8月30日から9月5日までは『防災週間』です。

いざというとき、被害の発生や拡大を防止するには、一人ひとりが災害に対する正しい対処を行うことが重要なポイントになります。

また、日ごろから地域のコミュニティを大切にして、連帯感を深めるなど『地域の防災力』を高めておくことも必要です。

過去の教訓を忘れないために、いま、自分ができていることを確認するためにも、防災訓練には積極的に参加しましょう。

※防災訓練の日は、地域により異なります。不明な点は、地域安全課までお問い合わせください。

※訓練の一環としてエリアメールを発信します。ご理解・ご協力をお願いします。

☎ 地域安全課 ☎ 055-948-1412



●家族の行動表・連絡先

作成日：平成 年 月 日

●わが家の行動表・非常連絡先

名前	日常いる可能性の高い場所	連絡先（職場や携帯電話など）

●わが家の集合場所

●非常時の連絡先（県外の親せき・友人など）

名前	連絡先

●地域の避難場所